

平成27年度 第2回がまごおり協働まちづくり会議要旨

日 時 平成27年8月3日（月）
午後3時30分～午後5時30分
場 所 蒲郡市役所新館5階庁議室

1 挨拶

- 和泉会長挨拶

2 議題

(1) 協働モデル事業について

- 各委員から資料1に基づき事業提案
 - ・石川委員より「居場所づくり」について提案
 - ・天野委員より「地域コミュニティの形成」について提案
 - ・小林委員より「まちづくり・まちおこし団体等の連携」について提案
 - ・鈴木委員提案の「若者の就労支援」について事務局より代理説明
- 結論
 - ・どのテーマに取り組むか継続審議。各事業内容についてさらに検討を加え、次回会議で委員から再提案を行い決定する。考え方としては「1つのテーマに絞る」、「コアを決めて他のテーマを足し合わせ複数で取り組む」の両方について検討する。
- 委員意見等
 - ・居場所づくりについては高齢者が主な対象。継続運営に一番のネックとなるのが場所の確保と家賃。あと運営資金と担い手人材。誰かにもてなしてもらうのではなく、利用者が自ら担い手となる必要がある。
 - ・公民館には既にたくさんの活動があるが、後からだ入りづらい雰囲気がある。
 - ・昭和45年は1家族平均4.2人。それが平成22年には2.8人に減っている。また、人口に占める若者無業者の割合も平成12年から10年間で倍になっており、どちらも社会的に重要な課題である。
 - ・花を育てる活動を通じて心豊かな市民が増え、ゴミも減ると思う。
 - ・時間をもてあましている高齢者が居場所に行き、「やることがないなら花でも植えようか」となれば最高の形。
 - ・「居場所づくり」の場所は、お寺も検討してはどうか。平日はほとんどお寺の本堂が稼動することはないので、場合によっては可能ではないか。また、“居場所”に出てこない閉じこもりの高齢者が一番の問題では。うまく回るためには、話を積極的に聞ける人が必要と思われる。
 - ・まちづくり・まちおこしの活動は色々な団体に関わり実施しているが、団体同士の連携が少ないように感じる。団体同士が連携して、イベントなど共通の経験を通じて町全体でボランティアの組織作りにつながるとよい。
 - ・従業員の高齢化や退職後の過ごし方など“居場所”のテーマは、企業としても関わりがある。また、若者就労についても、現状、マッチングはハローワークが主

だと思うが、企業側からも情報発信していくことも大事だと思う。

- ・若者就労については、難しい問題で、企業側も受け入れが困難なこともある。いきなり就労体験ではなく、まずはボランティア体験により社会との関わりを持ち、コミュニケーションをうまく取れるようになることが大事だと思う。若い人で地域との関わりを探している人もいると思うので、そうした人が活躍できる仕組みができるとうい。
- ・「“居場所づくり”と“コミュニケーションの形成”」、「“まちづくり・まちおこし団体等の連携”と“若者の就労支援”」はそれぞれリンクする。ペアで検討することも必要。コアの課題に対し、他の提案をリンクすることも考えられる。さらなる議論が必要と思われる。

(2) 市民企画公募まちづくり事業助成金について

○ 事務局から資料2に基づき説明

- ・「市長への」提言で示された現状の課題に対し、今後の助成金のあり方と制度内容について見直しを図る必要がある。

○ 結論

- ・平成28年度助成金事業は、部分的に手直しを図るマイナーチェンジを行う。
- ・平成29年度助成金事業は、抜本的に手直しを図るフルモデルチェンジを行う。その際、本会議とは別のワーキングを組織して内容を協議し、本会議で諮り決定する。ワーキングのメンバーは、助成金経験のある団体、今後助成金を検討している（または検討してほしい）団体、他市助成金関係者等。

○ 意見

- ・他市の助成金情報を収集し参考にするべき。
- ・助成金にチャレンジしてもらうために基金をつかうなど、運用についても検討していけると良い。

(3) その他

- 次回会議は、10月9日（金）を第一候補に調整する。

欠席者 鈴木委員、大原委員、委員数11人中出席委員9人（会議成立）